



関西支部活動トピックス (10~12月)

関西支部

第83回 (本年度第2回) 機器・部品メーカー懇談会

部品運営委員会 (委員長: ホシデン (株)・古橋健士 社長) では11月22日 (金) に大阪市の「太閤園」で第83回「機器・部品メーカー懇談会」を開催しました。

最初に古橋委員長より挨拶がありました。「1~6月の電子部品グローバル出荷は対前年比9.2%増、直近の7~9月は22%増とリーマンショック後最高の伸びとなり、東京オリンピックの招致決定も併せて、明るさが増しています。40年以上の歴史を持つこの懇談会に、今回は初めて自動車、住宅メーカーとしてダイハツ工業様ならびにパナホーム様のご参加をいただき、心より感謝申し上げます。こうした新しい分野も含め、今後ともこの会を盛り上げて行きたいので、一層のご支援ご協力をお願いします。」

続いて、機器メーカー4社より各製品の市況等につき報告しました。①「次世代放送方式とテレビ受信機について」シャープ (株) : 4K / 8K 放送の実現に向け、産学官連携の「次世代放送推進フォーラム」による取組みが、オリンピック等のイベントを一里塚にこれから進められて行きます。家庭で視聴する場合、画面が60型4K以上のサイズ・解像度になれば極めて臨場感の高い視聴体験が得られることが知られており、市場へのインパクトに期待がかかります。②「ダイハツ工業のインドネシア市場での取組み」ダイハツ工業 (株) : 自動車の世界需要は先進国から新興国にシフトし続けており、新興国中6位を占めるインドネシア市場も右肩上がりの成長が続いています。低燃費・低価格車の普及に向けた「LCGC (ローコストグリーンカー) 政策」の導入により、さらなる需要拡大が見込まれます。市場の9割以上を日系メーカーが占めていますが、最近では欧米メーカーの参入も相次ぎ、競争は激しさを増し

ています。③「スマートフォン市場動向と当社取組みについて」シャープ (株) : 世界市場では2013年に



スマートフォン、タブレットがフィーチャーフォン、ノートPCをそれぞれ上回ります。将来的にはスマートフォンをハブにすべてがネットにつながって行くと考えられ、通信技術があらゆる分野のキーテクノロジーとなります。その他、省電力化やセンサーの進化を踏まえた商品動向についても説明がありました。④「エコ & スマートハウス関連の動向と今後の展開」パナホーム (株) : 国内住宅産業は約20兆円の規模を持つ内需の柱です。プレーヤーの9割は地場の工務店ですが、0.3%の大手メーカーが棟数の1/4を建てています。大手の牽引でスマート化が進みつつあり、エネルギー技術を総動員するZEH (ネット・ゼロ・エネルギー住宅) やICTの活用による情報化、さらには、地域や自然とのつながりを重視した街づくりの取組みが注目を集めています。最後に部品側を代表して (株) 村田製作所より⑤「スマート社会のインフラとなる通信技術」と題し、電子部品業界の景況概要および通信分野の部品需要予測について報告があり、また、センサと無線通信の技術により自動車、ヘルスケア、環境・エネルギー等の新たな市場を拓いて行く取組みが紹介されました。

各報告後には活発な質疑が交わされ、終了後の懇親会も含めて、関西部品各社トップと機器各社事業責任者の交流が進められました。

機器運営委員会講演「スマートライフのパートナーへ」

機器運営委員会 (委員長: パナソニック (株)・宮部義幸 常務取締役) では10月30日 (水) に (株) エヌ・ティ・ティ・ドコモの永田清人 常務執行役員関西支社長をお招きし、掲題の講演を行いました。最初に、同社の概要、移動体通信市場の現状、グローバルにお

ける同社の位置づけについて説明がありました。日本市場は、海外に比べデータ通信料の比率が高く、ドコモでは約6割を占めます。また、スマートフォンの契約が13年度末には約5割に達する見込みで、こうしたモバイル市場の変化に伴い、収益源は端末・回線からサー

ビス等の上位レイヤーに移って行きます。ドコモの「dマーケット」は現在400億円/年の規模ですが、デジタルコンテンツ、eコマース、生活・サービス（学習、健康、旅行等）のラインナップ拡大を進め、14年度は1.5倍にすべく取り組んでいる所です。日本初のスマートフォン向け放送局 NOTTV は昨年4月にサービスを開始し9月1日に150万契約を突破しました。今後はエリアの拡大に努め、データ放送・通信連携サービスも充実を図って行きます。その他、「ドコモスマートホーム」

や次世代移動通信5G等、将来に向けた取組みについても詳しくご説明いただきました。通信事業者幹部によるご講演は支部として初めての取組みで、活発な質疑が交わされました。



大阪大学における「JEITA 関西講座」

関西 IT・ものづくり技術委員会/産学連携分科会では、前期の神戸大学に引き続き、後期は大阪大学大学院にて「JEITA 関西講座」を開講しています。講師は会員各社より派遣いただいております、下記スケジュール

で講義が進められています。全講義終了後は、講義内容について理解を深めるため、学生がグループ毎に各企業を訪問し、講師へのインタビューを行います。

月	日	テーマ	担当会社
10	30	バイオセンサの開発と商品化	パナソニック (株)
11	6	社会を支える防犯カメラの実際	TOA (株)
	20	電子部品の栄枯盛衰 (デバイス事業を通してみた20年)	(株) 村田製作所
	27	船用衛星通信の技術動向について	古野電気 (株)
12	4	知価社会における新規ビジネス	ニチコン (株)
	11	家庭用燃料電池の開発	パナソニック (株)
	18	DVD 用光ピックアップの開発 (機能の向上とコストダウンの両立)	三菱電機 (株)
1	8	CIGS イメージセンサ開発プロジェクト事業化に向けて	ローム (株)
	15	半導体発光デバイスの開発	シャープ (株)

茨木市における「ものづくり教室」

部品運営委員会 (委員長: ホシデン (株)・古橋健士 社長) では平成20年度より大阪・京都の各市教育委員会と連携し、ものづくりに興味を持ってもらうため小学生に電子工作を体験してもらう「ものづくり教室」を実施しています。本年度は11月9日 (土) に茨木市教育センターで行い、同市の小学3~6年生29名が、委員会から派遣された指導員 (8社10名) と茨木市の先生 (6名) の指導で「ウソ発見器」を製作しました。大半の子がハンダ付けは初めてで、最初はこわごわの様子も見えましたが、工作が進むに連れて次第に慣れ、時間内に全員が完成させて楽しく遊ぶことができました。

た。ハンダ付けに興味を持ち、完成後さらに練習を繰り返す子も多く見られました。



アンケートの結果は「大変おもしろかった」27名「まあまあおもしろかった」2名で、「工作は苦手だけど楽しくできてよかった」、「もっと難しくて複雑なものもやってみたい」等の感想もあり、大きな成果をあげることができました。